

プロジェクト課題No. 3 果樹産地の維持・発展に向けた 若手果樹生産者を中心としたネットワーク構築

大河原農業改良普及センター



計画期間：令和5年度～令和6年度

対象者：管内若手果樹生産者 14名

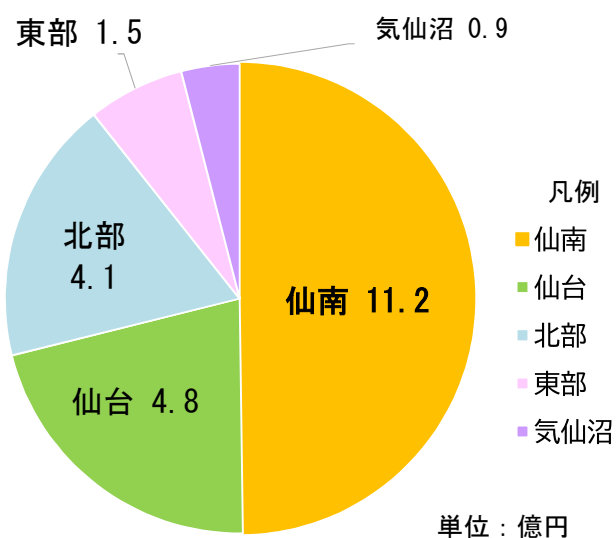
担当チーム員：

R5○佐々木彩乃、高嶋名世瑠、熊田修之、小島由美子、大森裕俊、進藤裕子

R6○進藤裕子、高嶋名世瑠、熊田修之、小島由美子、大森裕俊、中込佑介

1. 課題の背景

圏域別果樹産出額（R3）



【仙南地域の概要】

- ・ 果樹生産が盛んな地域
- ・ 県全体の果樹産出額22億円のうち、
半数の11.2億円を占める
- ・ 後継者不足が地域的な課題になっている
- ・ 親元就農や地域外からの新規就農者は
貴重な存在



ベテランが多い研修会は自由に発言しづらい

同じ栽培品目では同世代が少ない

他の市町の若手果樹生産者 とつながる機会がない

若手果樹生産者からの声
若手生産者のみで集まり
自主的な活動を行いたい！

2. 対象者の概要

■管内の若手果樹生産者14人

- ・ 経験：就農 1～10年目程度
- ・ 年齢：20～30代
- ・ 若手果樹生産者は管内に点在
(左図「★」)

若手果樹生産者という共通点！

一方…就農年数、就農形態（親元就農、独立就農等）、栽培品目、出荷形態は様々



3. 活動目標と活動事項

【活動目標】

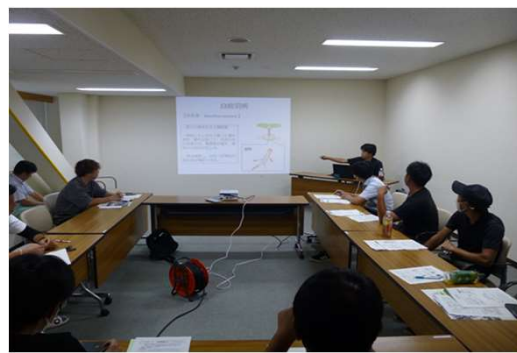
- 1 : 若手果樹生産者の知識や技術の向上が図られ、互いの交流が深まる
- 2 : 合同研修会等を通じて、自主的、連携した活動が行われるようになる

【活動事項】

- ・ 樹種を超えた若手果樹生産者間の交流促進支援
 - 研修会の開催
 - ワークショップの開催
- ・ 若手果樹生産者の連携活動支援
 - 共同出展機会の提供
- ・ 若手果樹生産者への巡回指導及び研修会等への誘導

4. 活動状況とこれまでの成果

樹種を超えた若手果樹生産者間の交流促進支援 研修会の開催



- ・ 対象者の興味関心に合わせた研修会を開催し、定期的に集まる機会の提供を行った。(計9回)
- ⇒ほとんどの研修会で対象者の半分以上が参加
研修会前後で活発な意見交換が行われた



「下草管理に関する研修会」
(ロボット草刈り機による 下草管理 の実演)



りんごせん定研修会
(対象者の園地で実施)

若手果樹生産者への巡回指導及び研修会等への誘導



- ・対面での参加誘導を実施
- ・研修会参加に対する親世代への理解促進を行った。
⇒研修会のほとんどで対象者の半分以上が参加。

親御さんから「しっかり送り出すよ！」との応援も生まれた

若手果樹生産者の活動レポート

令和6年8月9日（水）
高松市大河原農業改良普及センター

大河原農業改良普及センターでは、若手果樹生産者対象の定期的な研修会等の開催を通して樹種の違いを超えた連携の活発化に取り組んでいます！

第1回ワークショップ (5月24日)

農繁期の働き方や労働力の確保等をテーマに、ワークショップ形式で意見交換を行いました。

✓ 税元就農だったので農機具を引き継いだ、今後の更新が不安。購入時の補助があると良い。

✓ 軒先販売では場所により条件が異なる。
✓ 主要道路に面していない場所では知達さんが主な客層となる。味と品質で選んでもらっていると思うので、品質管理をより大切にしている。

✓ 繁忙期は、家族や友人に頼る

若手果樹生産者の活動レポート

大河原農業改良普及センターでは、若手果樹生産者対象の定期的な研修会等の開催を通して樹種の違いを超えた連携の活発化に取り組んでいます！

令和6年8月9日（水）
高松市大河原農業改良普及センター

第1回ワークショップ (5月24日)

農繁期の働き方や労働力の確保等をテーマに、ワークショップ形式で意見交換を行いました。

✓ 税元就農だったので農機具を引き継いだ、今後の更新が不安。購入時の補助があると良い。

✓ 軒先販売では場所により条件が異なる。
✓ 主要道路に面していない場所では知達さんが主な客層となる。味と品質で選んでもらっていると思うので、品質管理をより大切にしている。

✓ 繁忙期は、家族や友人に頼る

若手果樹生産者の活動レポート

大河原農業改良普及センターでは、若手果樹生産者対象の定期的な研修会等の開催を通して樹種の違いを超えた連携の活発化に取り組んでいます！

令和6年8月9日（水）
高松市大河原農業改良普及センター

第1回ワークショップ (5月24日)

農繁期の働き方や労働力の確保等をテーマに、ワークショップ形式で意見交換を行いました。

✓ 税元就農だったので農機具を引き継いだ、今後の更新が不安。購入時の補助があると良い。

✓ 軒先販売では場所により条件が異なる。
✓ 主要道路に面していない場所では知達さんが主な客層となる。味と品質で選んでもらっていると思うので、品質管理をより大切にしている。

✓ 繁忙期は、家族や友人に頼る

若手果樹生産者の活動レポート

大河原農業改良普及センターでは、若手果樹生産者対象の定期的な研修会等の開催を通して樹種の違いを超えた連携の活発化に取り組んでいます！

令和6年8月9日（水）
高松市大河原農業改良普及センター

第1回ワークショップ (5月24日)

農繁期の働き方や労働力の確保等をテーマに、ワークショップ形式で意見交換を行いました。

✓ 税元就農だったので農機具を引き継いだ、今後の更新が不安。購入時の補助があると良い。

✓ 軒先販売では場所により条件が異なる。
✓ 主要道路に面していない場所では知達さんが主な客層となる。味と品質で選んでもらっていると思うので、品質管理をより大切にしている。

✓ 繁忙期は、家族や友人に頼る

若手果樹生産者の活動レポート

大河原農業改良普及センターでは、若手果樹生産者対象の定期的な研修会等の開催を通して樹種の違いを超えた連携の活発化に取り組んでいます！

令和6年8月9日（水）
高松市大河原農業改良普及センター

ワークショップ形式連携活動（令和6年度）



- 5月に『若手果樹農家のグループトーク』を開催
- 「同じ業種の他の人の意見を聞ける貴重な機会だった！」「みんな課題は一緒なんだと感じた」



- 8月に『相互園地視察』を開催
（丸森町・角田市・大河原町・蔵王町の対象者の園地を視察）
「研修会と違って話す機会が多く良かった」「他の市町の園地を見る機会はまったくないので貴重な機会だった」

若手果樹生産者の連携活動支援

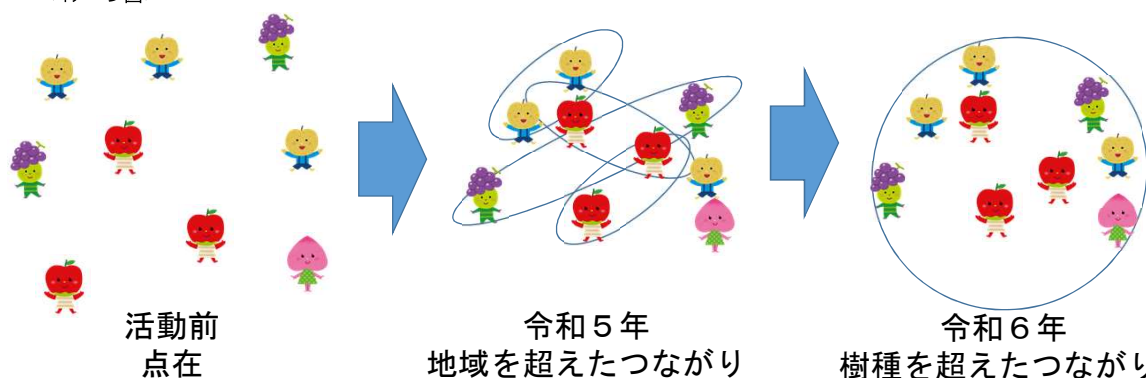


- 複数のイベントで仙南若手果樹生産者として共同出展の実施
R5：2回・R6：3回（せんなんマルシェ、白石市農業祭）
⇒若手果樹生産者だけで協力しながら出展する機会ができた

4. 活動状況とこれまでの成果

樹種の違いを超えるつながりが形成され、自主的な連携活動の下地が形成された

<イメージ図>

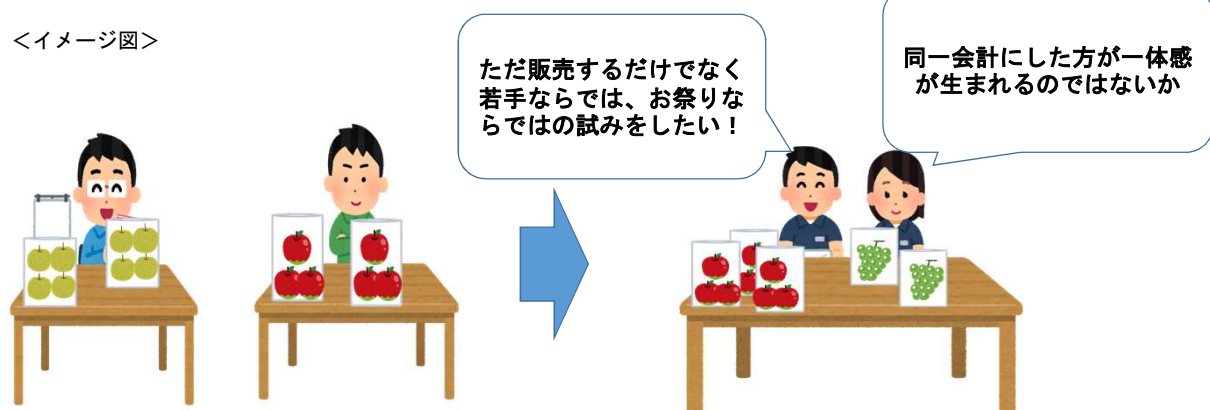


R5例：蔵王町で梨を栽培している対象者と角田市で梨を栽培している対象者

R6例：角田市で梨を栽培している対象者と七ヶ宿町でぶどうを栽培している対象者

- 共同出展について、
当初は各経営体が同じブースでそれぞれの商品を販売
⇒回を重ねるごとに会場設営や販売対応で協力する場面が増えた

<イメージ図>



目標に対する課題の評価

• 定性的目標に対する評価

- 1：若手果樹生産者の知識や技術の向上が図られ、互いの交流が深まる
→計9回の研修会を通じて知識向上が図られ、対象者の学習意欲も深まった
研修会中の意見交換タイムやワークショップを通じて交流関係が深まった
- 2：合同研修会等を通じて、自主的、連携した活動が行われるようになる
→計5回の連携活動等を通じて共同活動・情報共有の土台が形成された

• 定量的目標に対する評価

連携活動の回数

	R4	R5	R6
実績 (回数)	0	2	3
目標 (回数)	—	1	2

5. 今後に向けて

- 樹種の違いを超えたつながりが形成され連携活動の下地が出来た
⇒ 継続して研修会等の集まる機会の提供により組織化を支援する

将来的には就農希望者の受け入れ、地域の担い手として活動する生産者グループを目指す！

